

- 19; 137-144. 東海大出版、東京。  
 ……………・本田稔. 1981. 名古屋市東部の湿原植生.  
 Hikobia, Suppl. 1: 487-496.  
 浜島繁隆. 1976. 愛知県・尾張地方の小湿原の植生. 植  
 物と自然 10: 22-26.  
 井波一雄. 1966. 岐阜県の植物分布地理概説. 岐阜県の  
 植物刊行会、岐阜県の植物、pp. 25-84、大衆  
 書房、岐阜。  
 牧野富太郎. 1926. 下総無射田の食虫草数年を出ずして  
 滅尽せん乎. 植物研究雑誌 3: 123-124.  
 南谷忠志. 1985. 宮崎県高鍋台地の植物. 植物と自然  
 19 (14): 28-31  
 Ueda, K. 1988. Star Magnolia (*Magnolia tomen-  
 tosa*)-an indigenous Japanese plant. J.  
 Arnold Arbor. 69:281-288.  
 植田邦彦. 1989. 東海丘陵要素の植物地理 I. 定義. 植  
 物分類地理 40. (印刷中)

## 広島県西条盆地の Kouhonne 類 (要旨)

下田 路子  
 (広島大学理学部)

広島県西条盆地のため池には、これまでに他の地域からの報告例がない形質を持つものを含めて、三種類の Kouhonne 類が生育している。これらの Kouhonne 類の特徴と、生育地の状態を報告する。

### Kouhonne 類の種類

西条盆地で見られる Kouhonne 類の特徴を表1に示した。これら三種類の Kouhonne 類のうち、柱頭盤が黄色のものは、従来の「Kouhonne」の記載とよく一致するので、Kouhonne と同定できる。また小型で挺水葉が発達しないものは「オグラ Kouhonne」の記載とほぼ一致するため、オグラ Kouhonne の柱頭盤が赤い一形と考えられる。大型で柱頭盤が赤いものは、上記二種類の特徴をあわせて持つため、これら二種の間が生じた雑種と思われる。

### Kouhonne 類の生育環境

いずれの Kouhonne 類も、人為的な影響がほとんどない山間の池にも、水田や人家が近くにある池にも見られるので、かなり広い範囲の生育環境と言える。しかし、都市化が急速に進みつつある西条盆地では、ため池の埋立てや汚濁があちこちで見られるようになり、Kouhonne 類の生育地も減少しつつある。

これまでに、五個所でオグラ Kouhonne (赤) が消滅したのを確認した。これには、池が埋立てられたためと、池の植物相が変わったためとの、二通りの場合がある。後者の一例として、東広島市西条町下見にある「小池」の水草相の変化を表2に示しておく。

一般に山間の池では植生の変化は少ないが、何らかの人間の影響を受けている池では、Kouhonne 類の消滅や個

表1. 西条盆地の Kouhonne 類の種類と特徴

	葉の比較				花の比較		生育を確認した池の数*
	大きさ	挺水葉	葉の裏の毛	葉柄	柱頭盤の色	雄ざい	
Kouhonne (黄)	大	有	少ない	太くて中実	黄	葯≤花糸	9
Kouhonne (赤)	大	有	多い	太くて中実	赤	葯≤花糸	7
オグラ Kouhonne (赤)	小	無	多い	細く扁平で中空	赤	葯<花糸	37**

\* 調査期間中に Kouhonne 類が消滅した池も含む。Kouhonne 類が生育するが、これまでに花を見たことがない池は除外した。

\*\* 西条盆地の南方の黒瀬町にある池一個を含む。

表2. 小池(東広島市西条町下見)の水草相の変化

調査年 月日	'80 8/7	'81 8/19	'82* 7/8	'85 7/25	'86 7/22	'87 8/2	'88 10/19	'89 7/4
オグラコウホネ(赤)	+	+	•	•	•	•	•	•
ヒツジグサ	+	+	•	•	•	•	•	•
マルバオモダカ	+	+	•	•	•	•	•	•
タヌキモ**	+	+	+	+	•	•	•	•
ヒルムシロ	+	+	•	+	+	+	•	•
ジュンサイ	+	+	+	•	+	+	+	•
ヒシ	•	•	•	•	+	+	+	+
アオウキクサ	•	•	•	•	•	•	+	+
ウキクサ	•	•	•	•	•	•	+	+

\*\* 池と接する道路ができ、また堤防の改修工事も行われた。

\*\* タヌキモと記録しているが、イヌタヌキモと考えられる。

体数の減少が起きている。このような池には、ヒシが 密生していることが多い。

## マツモが千葉県北端に群生

齊藤吉永

ごくありふれた水草の一つであるマツモ(マツモ科)  
*Ceratophyllum demersum* L. さえ最近では余り見られ  
なくなっていました。

池沼の水の汚れとか、マツモの生えているような水流  
等の改修工事等に原因はあるらしいが、昨年(1988.9) 山  
梨県の武田信玄ゆかりの場所を尋ね歩いた折りに石和  
温泉街を流れる川に「マツモ」が沢山あって、仲間がブ  
ドウ狩りに夢中になっているとき私だけブドウどころか  
竹の棒をさがして流れの中のマツモの採集に時を費  
したことを思い出す。

ところが帰化植物のアメリカフウロ(フウロソウ科)  
*Geranium carolinianum* L. やキキョウソウ(キキョ  
ウ科) *Specularia perfoliata* (L.) A. DC. の多産す  
る千葉県北端の関宿所を時折り訪れているが、この町の  
東側、利根川の右岸土手に近い水田の中の用水路を調べ  
て見たら川巾約2m程の小さい流れに約1km余りにわた  
って水草が繁茂「クロモ」か「コカナダモ」であろうと  
採集して見ると全部がマツモであった。

一見似た姿の「フサモ」*Myriophyllum verticillatum*

L. やホザキノフサモ *M. spicatum* L. var. *muricatum*  
Maxim. (共にアリノトウグサ科) は手ざわりが軟らか  
いがマツモは葉の裂片に鉤状の小さな鋸歯を持っている  
ため非常にざらついて手に持つだけで区別ができる程で  
ある。

関宿所のマツモ自生地がいつまで残るのか判らないが  
永続してほしいと願わずにはいられない。

(面白いというのか困るというのか実はマツモ科とい  
うのが二つあって、一つは双子葉類—離弁花類のマツモ  
科 *Ceratophyllaceae* であり、もう一つは海藻で褐藻  
類のマツモ科 *Heterochordariaceae* で食用としても美  
味なマツモ *Heterochordaria abietina* Setchell et  
Gardner があって食用にならないものと食用になるも  
のと、真水と海水に生育するという差はあっても、科も  
和名も同じという現実がある)

(1989. 7. 3.)